

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	公共交通利用促進事業						担当部	都市建設部							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般			担当課	都市政策課						
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降			担当係	交通政策係						
	総合計画 分野別計画	主目的	6 都市基盤		22 都市交通		1 より効果的・効率的な公共交通ネットワークを形成します									
		副目的	22-2													
	予算区分	款	2		項	8		目	3		大	3		中	1	
	根拠法令・個別計画															
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	人にも環境にも優しい「交通先進都市こまき」の実現に向け、円滑な移動手段の確保による快適な住環境や都市機能の充実を目的とした交通網の充実を図る。														
	内容 (手段)	<p>○デマンド交通実証実験運行 バスとタクシーの中間的な乗り物で、予約制の公共交通機関であるデマンド交通について、東部地区及び北部地区において実証実験を行う。 【運行期間】平成25年8月1日～平成26年7月31日まで 【運行日】平日及び土曜日 【利用料金】大人300円/1回・小学生100円/1回・幼児無料 《平成26年2月1日からの変更内容》 ・自宅前での乗降可能 ・1週間前から予約可能 ・1日乗車券(500円:大人、小学生 同額)</p> <p>○デマンド交通実証実験検証・巡回バス再編再編計画作成業務 デマンド交通の実証実験を通して本格運行に向けた調査・検討を行うとともに、巡回バスの運行ルート及びダイヤの再編について検討する。</p> <p>○バス運行対策費補助金 市民の日常生活に必要な路線として地域公共交通会議にて認められた路線に対して補助するもの。平成26年度の対象は、あおい交通の運行するピーチバスと8月1日より名鉄バス(株)が運行する間内駅と岩倉駅を結ぶ路線の2路線。乗合バス事業者に運行対策費補助金を交付することで、交通手段の確保を図る。</p> <p>○交通施設バリアフリー化施設整備費補助金 名古屋鉄道(株)が名鉄小牧線味岡駅において行うバリアフリー化工事の自治体負担分。 工事内容:エレベータ 1基、多機能トイレ、ホームかさ上げ等</p> <p>【平成25年度直接経費の内訳】 バス運行対策費補助金(10,400,959円) 平成25年度公共交通利用促進協議会補助金(636,535円) デマンド交通実証実験運行委託(23,712,075円) デマンド交通実証実験検証・巡回バス再編再編計画作成業務(23,497,950円) 広告料(6,402,900円) 報償費、需用費他(367,408円)</p> <p>【平成26年度直接経費の内訳】 バス運行対策費補助金(13,383千円) 平成26年度公共交通利用促進協議会補助金(700千円) デマンド交通実証実験運行委託(12,508千円) デマンド交通実証実験検証・巡回バス再編再編計画作成業務(6,707千円) 交通施設バリアフリー化施設整備費補助金(63,833千円)</p>														
	受益者負担	有 デマンド交通利用料金 大人1回300円 小学生1回100円 幼児無料 1日乗車券500円(大人、小学生同額) 受益者負担総額407,700円														

コスト	費用	項目	単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額
費用	直接経費	従事者数	人	0.35	0.35	0.35	0.35
		人件費	千円	1,841	1,841	1,841	1,841
	その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
		人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計		千円	5,053	10,294	66,858	101,230
	対前年比		%		203.7	649.4	151.4
財源	一般財源	千円	5,053	10,294	66,451	100,900	
	国・県支出金	千円	0	0	0	0	
	その他財源	千円	0	0	407	330	

業	活動指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	績	公共交通利用促進協議会による啓発活動(事業)数	件	目標	4	4	4
実績				4	4	3	
			目標				
			実績				
			目標				
			実績				
成果指標名		単位		H23	H24	H25	H26
	こまき巡回バス年間利用者数	人	目標	318,000	358,000	365,000	372,000
			実績	322,379	389,776	415,798	
			目標				
			実績				

事業の自己評価	平成25年度の達成状況	デマンド交通実証実験を運行を開始するとともに、巡回バスの見直し作業を行った。また、日常生活に必要な路線として認められたピーチバスに対して補助を実施した。公共交通利用促進協議会での啓発活動は、役員をはじめ多くの会員の参加を得て活発に実施することが出来た。さらに利用促進協議会では、名古屋鉄道㈱をはじめ、愛知県など4箇所の関係機関へ役員による強力な要望活動を実施した。それら地道な活動も一助となり、味噌駅のエレベーター設置についても、平成26年度に名鉄が設置することで協議が整った。	
	事業実施における課題	公共交通利用促進協議会の活動は、市民まつりやいきいきこまきでの啓発活動と関係機関への要望活動が主な活動となっているが、活動がマンネリ化しつつある。	
	事業を縮小・廃止したときの影響	市民が中心となって行っている公共交通を支える活動の継続が困難になり、公共交通の利用者が減少することも考えられ、その結果、公共交通が衰退する可能性がある。	
	平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	公共交通利用促進協議会の活動について、役員及び会員の負担軽減のためいきいきこまきでのブース出展の中止を検討する一方、新たな啓発活動事業を検討し、公共交通の更なる利用者増を目指す。
平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
	判定理由	公共交通利用促進協議会は、平成22年度から市内の主な企業に役員として参加していただき、通勤に係る現状と課題について検討することができた。今後、市民のみならず、企業や学校など、多様な主体を対象とした啓発活動が必要である。要望活動の内容については、事業者の経営状況等にも左右されるため、今すぐ実現する可能性は低いものの、継続的な要望活動は、今後も必要である。	
	27年度以降の改善案	ピーチバスなどの路線バスや名鉄小牧線など公共交通の維持のためには、利用者の増加が不可欠である。平成25年度においては、いきいき小牧で会員による啓発活動を行ったが、市民や企業、学校など幅広い市民参加により活動を進めていく。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。より、市民の利便性の高い公共交通網の整備に努めること。啓発活動については、より有効な方法への見直しを検討すること。